

「もったいない食品」活用 地域高齢者の経済的負担軽減へ



NPO法人「あいあいねっと」理事長 ● 原田佳子

「フードバンク」とは

「まめnanレストラン」が位置する広島市安佐北区可部街道は、かつて山陰と山陽を結ぶ唯一の連絡道であり、街道筋界隈は、大正初期ころまでは牛馬市が盛んで大勢の人が行き交う賑やかな地域であった。現在も広島市北部の要として重要な役割を果たしている。また、市中心部から約二十キロメートル離れ、辛くも原爆の被害から免れ、古い町屋の家並みが残存する市内では稀な地域でもある。

「NPO法人あいあいねっと」は、その地の利を生かし、可部街道沿いの古民家を利用し、平成二十年五月より基幹事業である「フードバンク事業」を始めた。事業を始めた背景には、近年、栄養面より経済的な事情を優先せざるを得ない高齢者が増えていると感じ、すでにアメリカやヨーロッパで活動が定着しているフードバンクに注目したのがきっかけである。

分食べられるのに、市場流通に乗らないなどの理由で捨てられてしまう「もったいない食品」を、主に食品関連企業や農家などの個人から寄贈していただき、要支援生活者を支援する団体に無償で寄付する活動のことをいう。

平成二十二年三月末までに、「あいあいねっと」が取り扱った「もったいない食品」は約二十五トンである。食品が破棄される主な理由は①パッケージの印字ミス②缶が凹んだ③賞味期限が近づいている③在庫管理にコストがかかる一などである。

日本におけるフードバンクの取り組みは、平成十四年、東京都台東区で「セカンドハーベストジャパン」が活動を開始し、平成十五年には兵庫県芦屋市で「フードバンク関西」がスタート。一昨年から全国的に広がりを見せている。

「まめnanレストラン」開業の経緯

「あいあいねっと」フードバンク広島」の立ち上げから一年が経過したところ、食料を提供する協力

かしている。

開店当初は、客数が伸びず不安になることもあったが、マスコミの取材や口コミなどを通して、「まめnanレストラン」の名前が知られるようになり、最近では平均客数二十人くらいである。多い時は四十人近くに上る。

客の多くは、地域の高齢者だが、若い世代の客も最近増えている。また、遠方からの客もありスタンプ共々驚かされることもしばしば。

客の反応は良好で、「安くて食べられるので助かる」「雰囲気落ち着いていて食事が美味しい」「野菜たっぷりヘルシー」など嬉しい声を聞か

せてもらっている。

高齢者の音楽会やお楽しみ会、料理講習会などの利用もあり、地域のサロンとしての機能も果たしつつある。

今後の課題

他の多くのNPO法人同様、活動の継続発展のため、資金調達は大きな課題である。「まめnanレストラン」は収益事業の一面も併せ持っている。スタッフ数の充実などを図り、客数を伸ばし利益を増やしていきたいと考えている。

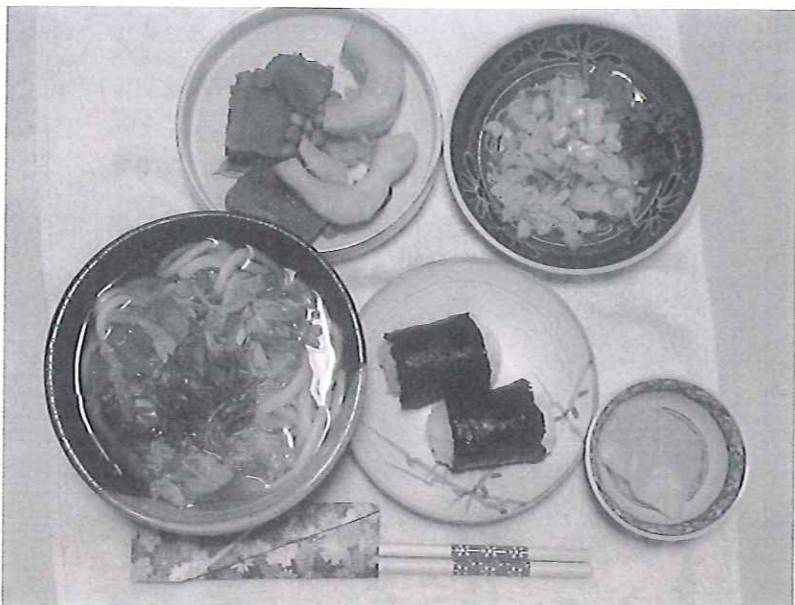
また、高齢者福祉の一端を担うよう、さらに認知度を上げ利用度を上げるよう宣伝にも力を入れていきたいと考えている。

【まめnan】

まめnanの由来は、「まめ」とは広島弁で「元気」のこと。「まめなんね?」「まめにしよらんかいのおく?」。昔、まちかどでは、いつもどこかでこんな挨拶交わされていました。私たちは、「まめnan」を通して、食べることや地域のことを考え、元気や健康づくりに活かす活動を展開します。(「あいあいねっと」パンフレットより)



まめnanロゴマーク



メニューの一つ



厨房で働くスタッフ



まめnanレストランの玄関

企業も、食料を受け取るパートナーシップ団体も増え、地域にも認知されるようになった。そこで、平成二十一年十月より、これらの食品を活用したレストラン事業を開始した。地域の高齢者の経済的負担の軽減と食べることの安心という当初の目的を果たす第一歩を踏み出した。名付けて「まめnanレストラン」。

「まめnanレストラン」開業までの経緯の詳細は、平成二十一年六月、「財団法人広島・ひと・まちネットワーク」より助成金をいただき、「あいあいねっと」事務所の台所を厨房に改装した。同年七月、保健所より営業許可取得。八月〜九月の間、メニューの考案・試作を重ね開店にこぎつけた。